

(西暦) 2014 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名

摂食・嚥下障害における専門性と介入項目の関係性に関する研究
ー病院・クリニックにおけるチーム・ケアの視点からー

学位の種類： 修士（作業療法学）

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号 12896605

氏 名：根岸 裕司

(指導教員名：大嶋伸雄 教授)

キーワード：摂食・嚥下障害，専門職，役割，ICF，Transdisciplinary team

要旨

病院・クリニックに入院中の摂食・嚥下障害者に関わる専門職が実際に行っている業務内容のアンケート調査を実施した。目的は、多数の専門職が輻輳的に患者へ介入する中で業務の項目がどの程度重なりあっているのかを明らかにする事により、摂食・嚥下障害のチーム・ケア、連携協働を推進するための基礎資料とする事である。

アンケートの対象は、摂食・嚥下障害に関わる専門職 20 職種であった。アンケート項目は、文献と合計 4 回の専門職（延べ 18 名）によるフォーカス・グループインタビューによって選択され、予め ICF のカテゴリーに分類された 44 項目を採用した。

アンケートの結果は、11 職種、174 名の回答があった。アンケート全項目において得られた結果の累計値では、看護師 (161.97)、医師 (159.45)、ST (148.26)、OT (146.35)、歯科医師 (144.56)、PT (129.41)、介護福祉士 (111.38)、歯科衛生士 (108.00)、管理栄養士・栄養士 (97.00)、薬剤師 (72.70)、歯科技工士 (49.40) の順で業務全体に関与する割合が高かった。

病院・クリニックにおける摂食・嚥下障害へのケア全般において、最も必要性が高いと考えられる項目は、ICF のカテゴリーの「心身機能・身体構造」「活動」の中に集中していた。摂食・嚥下機能の基本とは食べることであり、対象となる患者の咀嚼～嚥下機能を中心としたサポート体制が業務の主要目的であることがアンケート結果からも明らかとなった。

各項目を視覚的に表すため、項目に対し縦軸を業務の重なり of 累積値、横軸を共通因子にして、散布図を作成した。散布図を 4 つの象限に区切り（右上を第 1 象限にして、反時計まわりに右下を第 4 象限にした）、項目の分析を行った。第 2 象限から第 4 象限にかけて多数の項目が左上から右下方向に関連性を示す集団として配置されている様に見受けられた。これは、共通因子が高く専門性が高い業務と、共通因子は低くとも業務として専門職の重なり具合が高い項目間の一連の方向性と関係性を示していると推察された。

チーム・ケアの促進について、業務の重なり合いが多い項目では、専門職同士の関わりが多くあり、専門職ごとの役割の調整とすみ分けが必要であると考えられる。チーム・ケアは、多職種チーム (Multidisciplinary team) と相互関係チーム (Interdisciplinary team) とが存在し臨床現場では該当している。

これらの発展型である「相互乗り入れチーム (Transdisciplinary team)」は、全ての専門職が臨床の業務の中で流動的に動くことによる、一つの理想型であることを示していた。